

# 韓国慶州ナザレ園について



慶州ナザレ園は、韓国釜山の北、新羅文化の里と呼ばれる慶州の、繁華街から離れた静かな環境の中に佇んでいます。

## 【ナザレ園設立までの歴史的背景】

1945年8月に終戦を迎えた後、満州・朝鮮から大量の日本人が日本に帰国しました。そのような中、現地の男性と結婚した日本人女性の中には家族と離れて帰国することをせず、現地に残ることを選択した方がおられました。しかし、戦後の現地では反日感情が強く、日本人を妻にしていることが社会的重荷となってしまうこともあり、家族と離れ日本人であることを隠しながらひっそりと暮らす人もおられました。また、1950年に勃発した朝鮮戦争で夫と生き別れたり、その混乱の中、生きるために韓国籍を取得したため、日本に帰国できない方もおられました。



## 【慶州ナザレ園の設立とその活動について】



**慶州ナザレの地**



**金先生のお墓**



**故 金龍成先生  
(キム・ヨンソン)**

**金先生は、今でもナザレ園に近い  
小高い丘の上から  
ナザレ園のおばあちゃんたちを  
優しく見守っておられます。**

ナザレ園はそんな日本人妻を援助するために1972年10月に金龍成(キム・ヨンソン)先生によって設立されました。

敬虔なクリスチャンであった金先生は『真の愛の尊さと人間に国境はない』という信念に基づいて活動を続けられました。残念ながら金先生は2003年に亡くなられましたが、その意思は、現在の宋園長先生に受け継がれています。ナザレ園には日本人妻の保護という役割のほかにも、彼女達の国籍の確認、帰国の意思がある場合は日本国内にいる身元引受人の調査を行うという役割もしていました。今までに百数十名の方の日本への永住帰国が実現しています。

また、日本への帰国がかなわなかったおばあちゃんたちの強い思いである『せめて日本の見える丘にお墓を建ててほしい』という願いも実現し、ガンポのお墓として建立されています。

京セラ労働組合では1993年から毎年、ボランティア募金で集まったお金から100万円の寄付と、併せて1994年からの有志による慰問活動を行っております。



# 【慶州ナザレ園慰問活動】



第1回（1994年）慰問時の寄付金贈呈の様子  
梅本（当時）委員長より宋園長先生へ



1994年に初めて慰問した時のおばあちゃんたち



第2回（1995年）慰問時の交流会の様（左）。当時は、食堂でおばあちゃんたちと一緒に懐かしい歌を歌いました。楽しい交流会を終えてみんなで一緒に記念撮影（右）。



おばあちゃんたちとは毎年楽しく交流させていただき、慰問メンバーは“感動と元気”を貰って別れの涙を残して帰国しています。（写真は、左：第13回 2006年、右：第15回 2008年）



第11回 2004年

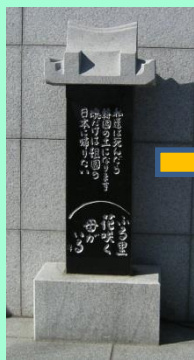


第18回 2011年

## 【おばあちゃんたちのお墓】



おばあちゃんたちが眠るガンポのお墓からは、海の向こうに遠く日本が見渡せます。



私  
た  
ち  
は  
死  
ん  
だ  
ら  
ば  
韓  
国  
の  
土  
に  
な  
り  
ま  
す  
魂  
だ  
け  
は  
祖  
国  
の  
日  
本  
に  
帰  
り  
た  
い

時代の流れの中で故国から離れて暮らさざるを得なかったおばあちゃんたちの最後の願いが石碑になっています。

## 【宋園長 旭日双光章受賞】

宋園長先生は、2007年11月に、

“身寄りをなくした日本人妻たちを長年にわたり献身的に支え続けてこられ、日韓の友好に寄与された功績” から

秋の叙勲「**旭日双光章**」

を受章されました。



2008年2月の第15回の訪問時に、慰問団メンバーよりお祝いの花束をお渡ししました。